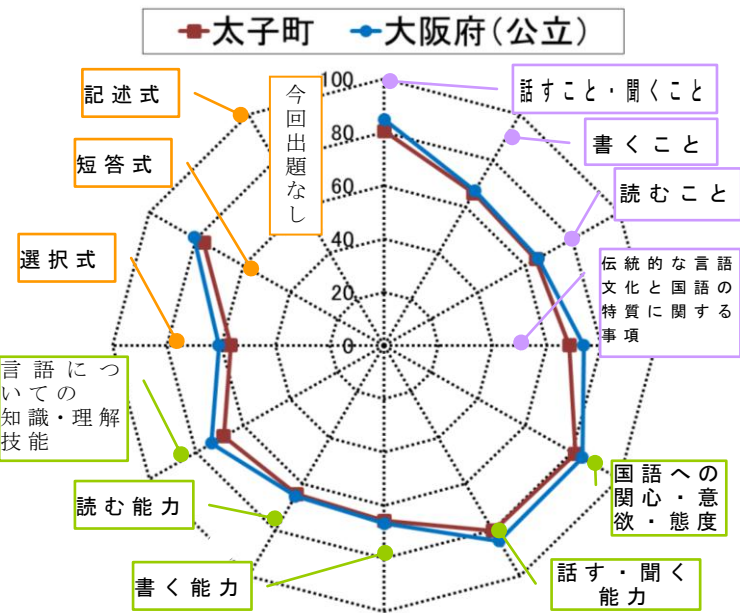


太子町平成24年度大阪府学力・学習状況調査

国語A(知識)では大阪府を4.2pほど下回り、国語B(活用)は0.9pほど下回る



がんばった問題例

～大阪府との比較において～

- 学年別漢字配当表の第5学年までに配当されている漢字を正しく読む
(問2: 減少...の漢字をひらがなになおしましょう)
府 91.2% 太子町 95.5% +4.3P
- 物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読む
(問8: 物語の一部を読んで登場人物の心情として適切なものを選択する)
府 46.5% 太子町 46.5% ±0P

成果と課題

平均正答率が大阪府の平均を下回っている。特に「言語についての知識理解技能」の領域においては課題が見られる。辞書の使い方や文法など学習の充実が必要である。しかし児童アンケートの中で「読書が好き」と答えた児童の割合が増え、学校の取り組みの成果が表れているといえる。また、「国語の授業が好きだ」と答えた児童が多く、意欲的に授業に取り組んでいる姿勢が見られる。そのため、引き続き漢字や音読の反復練習の継続に力を入れるとともに、読書・宿題を中心とした「家庭学習」の充実をバランスよく行っていくことが必要である。

小学校 国語A 主として知識

- 平均正答率は、大阪府より4.2P下回る。
- 今回出題された学習内容の中でも特に「話すこと・聞くこと」、「言語についての知識・理解・技能」の項目が大阪府を下回っている。
- 「読むこと」については、大阪府をやや下回っているが、昨年度より改善が見られ、読書等への取り組みの一定の成果が見られる。
- 昨年度は府を上回っていた「書くこと」が本年度は下回った。

努力が必要な問題例

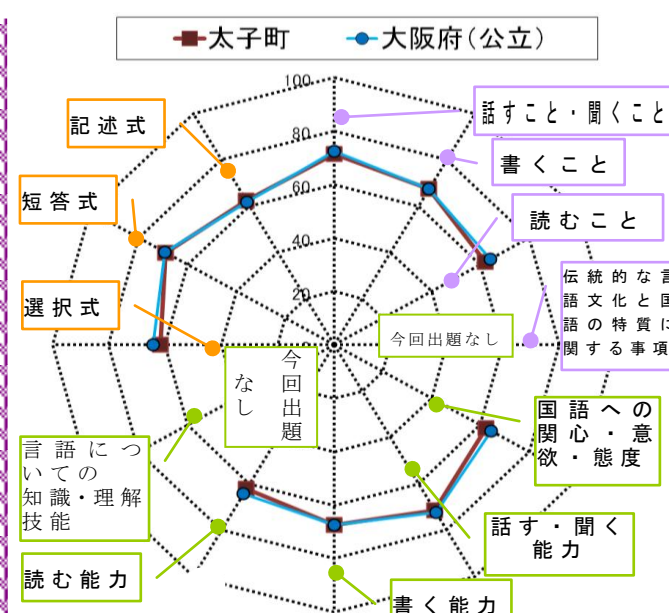
～大阪府との比較において～

- ◆ 学年別漢字配当表の第5学年までに配当されている漢字を正しく書く
(問1: きかい ひらがなを漢字になおしましょう【機械】)
府 57.8% 太子町 45.8% -12.0P
- ◆ 文脈における意味を考えながら、同音異義の漢字を使い分ける
(問4(1): ~部のカタカナで書かれた部分と同じ漢字を使うものを、1つえらんで番号を書きましょう【構成】)
府 30.8% 太子町 20.6% -10.2P
- ◆ 国語辞典を利用して語句を調べる方法を理解する
(問4(2): 一部の言葉について国語辞典で調べます。どのような言葉にして調べるとよいですか。ひらがな3文字で書きましょう。【作戦をたてて】)
府 84.9% 太子町 78.1% -6.8P
- ◆ 聞き手が理解しやすいように、話全体の構成を工夫する
(問5(1): 古川さんが実際に話した内容に合わせてアからウのカードを並べかえ、記号を書きましょう)
府 82.8% 太子町 76.8% -6.0P

学習内容・学習能力・問題形式別

分類	区分	設問数	平均正答率(%)	
			太子町	大阪府(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	2	80.3	84.7
	書くこと	2	65.8	66.9
	読むこと	2	64.5	65.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	68.2	73.4
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	2	81.3	84.3
	話す・聞く能力	2	80.3	84.7
	書く能力	2	65.8	66.9
	読む能力	2	64.5	65.4
	言語についての知識・理解・技能	12	68.2	73.4
問題形式	選択式	7	56.5	60.9
	短答式	11	76.7	80.8
	記述式	0		

小学校 国語B 主として活用



がんばった問題例

～大阪府との比較において～

- 司会者として発言者の提案を聞き、内容を整理する
(問2(1): 司会者の言葉が、なぜ議題からはずれているのでしょうか。その理由を書きましょう)
府 61.8% 太子町 66.5% +4.7P
- ポスターを作成する上で必要だが不足している情報を捉えて書く
(問3(4): ポスターを先生に見てもらおうと「大切な情報がぬけているよ」と言われました。抜けている情報を書きましょう)
府 52.3% 太子町 56.1% +3.8P
- 記事の内容に合わせて小見出しを書く
(問3(2): ふさわしい小見出しを15字以内で書きましょう)
府 63.8% 太子町 65.2% +1.4P

学習内容・学習能力・問題形式別

分類	区分	設問数	平均正答率(%)	
			太子町	大阪府(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	71.4	72.5
	書くこと	5	67.4	67.3
	読むこと	5	62.2	64.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	62.4	64.5
	話す・聞く能力	3	71.4	72.5
	書く能力	5	67.4	67.3
	読む能力	5	62.2	64.3
	言語についての知識・理解・技能	0		
問題形式	選択式	3	61.5	64.3
	短答式	4	68.9	69.3
	記述式	3	62.2	61.7

努力が必要な問題例

～大阪府との比較において～

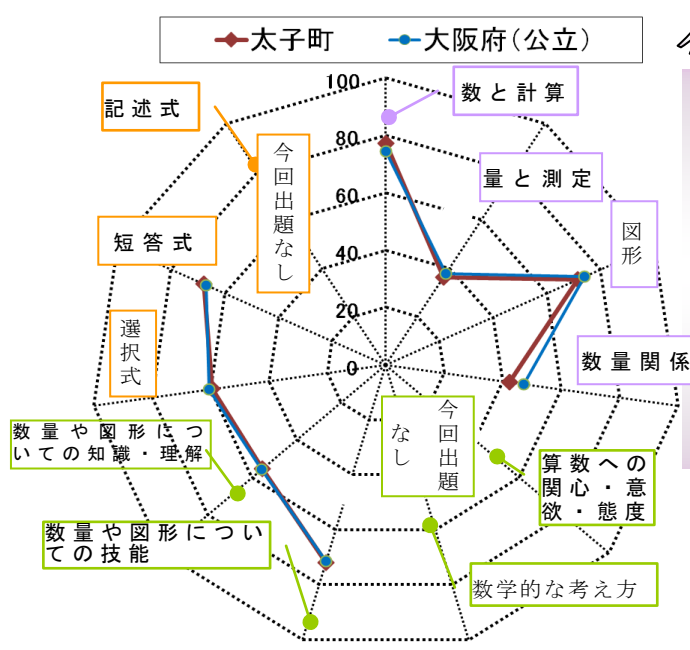
- ◆ 話し手の意図を捉えながら聞き意見と理由をまとめる
(問2(2): 記録係がまとめた黒板の一部にあてはまる内容を一つ書きましょう)
府 85.6% 太子町 80.6% -5.0P
- ◆ 必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明する。
(問4: 青山さんが応募できるコンクールをえらび、その理由を書き出しの言葉に続けて書きましょう)
府 41.3% 太子町 37.4% -3.9P
- ◆ 新聞記事で表現したいこととそのための組み立てをとらえる
(問3(1): 選んだ理由にどの部分を強調したいかを入れ、解答用紙に書きましょう)
府 63.0% 太子町 59.4% -3.6P

成果と課題

チャート図からもわかるとおり、内容・正答率ともに大阪府の平均とほぼ同様の結果である。「書くこと」「書く能力」「記述」の領域では大阪府の平均を上回り、良好な結果であるが、昨年度と比較するとその伸び率が低く、取り組みの検証と強化が必要である。児童アンケートでは「意見を発表するときうまく伝わるように工夫している」児童が多く、国語の授業を中心とした、言語活動の充実の取り組みが定着し、一定の成果が見られることがわかる。ただ、「読む能力」についてはA問題とともに課題であるが昨年度から改善が見られ、引き続き取り組んでいく必要がある。



小学校 算数A 主として知識



平均正答率は、大阪府と肩を並べる。
 府の平均正答率との差が昨年度より1.1p改善。
 「数と計算」領域では昨年度より大幅に改善し、計算タイムなどの取り組みが成果となっている。
 昨年度と同様「図形」については課題が残る。
 大阪府よりやや良好な領域もあるが、全体的に大阪府をやや下回っており、計算力をさらに向上させる取り組みを続ける一方で、図形や数量関係の理解を深める取り組みも必要である。

努力が必要な問題例

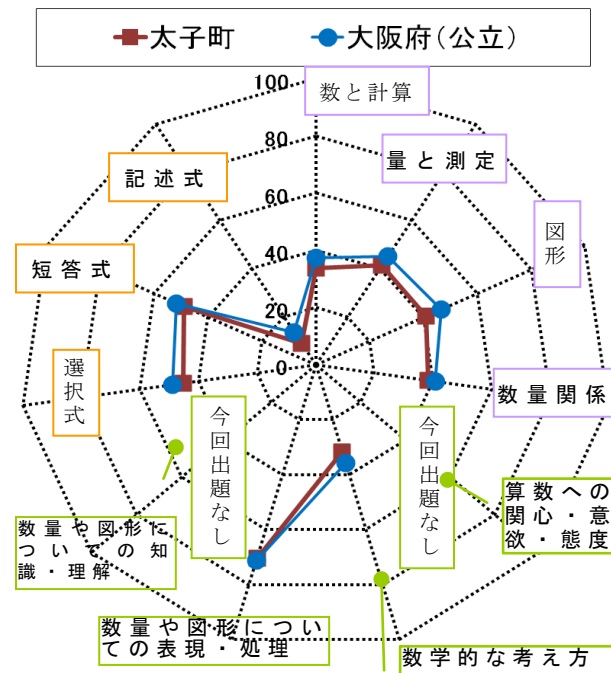
～大阪府との比較において～

- ◆ 三角形の面積における底辺と高さの関係について理解している
 (問4: 正方形の半分の三角形と同じ面積の図形をえらぶ)
 府 41.5% 太子町 32.9% - 8.6 P
- ◆ 四則が混合した式の計算の順序に注意しながら計算できる
 (問1(6): $20 - 10 \div 2$ を計算する)
 府 59.2% 太子町 51.6% - 7.6 P
- ◆ 比例について理解している
 (問8: 数量の組み合わせから1冊あたりの値を求め該当する項目を選ぶ)
 府 62.0% 太子町 56.1% - 5.9 P
- ◆ 図形の合同について理解している
 (問6(1): 与えられた図形と合同な図形を選ぶ)
 府 93.9% 太子町 90.3% - 3.6 P

学習内容・学習能力・問題形式

分類	区分	設問数	平均正答率(%)	
			太子町	大阪府(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	9	77.2	74.3
	量と測定	3	36.1	37.8
	図形	3	71.6	74.1
	数量関係	3	42.4	47.3
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-
	数学的な考え方	0	-	-
	数量や図形についての技能	9	72.0	71.5
	数量や図形についての知識・理解	9	55.3	55.8
問題形式	選択式	9	59.4	60.4
	短答式	9	67.9	66.9
	記述式	0	-	-

小学校 算数B 主として活用



平均正答率は、大阪府を約3.5p下回っている。
 レーダーチャートで分かるように、すべての領域で大阪府の平均を下回り、特に「活用」問題に課題が見られる。
 今回の出題内容においては特に「図形」「数学的な考え方」「記述式」について正答率が低く、課題が見られる。
 昨年度府の平均を上回っていた「数量関係」「数と計算」においても本年度は下回っており、本年度の大きな課題である

努力が必要な問題例

～大阪府との比較において～

- ◆ 2つの店のえんぴつの本数と値段の関係をもとに比較することができる
 (問4(2): A 文具店と B 文具店、どちらの方がいくら安くなるでしょうか)
 府 22.6% 太子町 11.6% - 11.0 P
- ◆ 条件を満たすような組み合わせを判断しその説明をすることができる
 (問1(2): 条件からおかずを選び、その理由を答える)
 府 19.2% 太子町 10.3% - 8.9 P
- ◆ 直方体の構成に着目して複合図形の一部を移動させて直方体をつくること
 (問2(2): 積み木を移動させ、直方体になる組み合わせを選ぶ)
 府 37.7% 太子町 29.7% - 8.0 P

がんばった問題例

～大阪府との比較において～

- えんぴつの本数と値段の関係を理解することができる
 (問4(2): えんぴつ 9本の値段と割引が適用される10本の値段の差を求める)
 府 47.6% 太子町 50.3% + 2.7 P
- 与えられた条件から棒グラフをかくことができる
 (問1(1): 熱量を計算し、棒グラフをかく)
 府 73.0% 太子町 75.5% + 2.5 P

学習内容・学習能力・問題形式別

分類	区分	設問数	平均正答率(%)	
			太子町	大阪府(公立)
学習指導要領の領域等	数と計算	3	33.8	37.3
	量と測定	2	41.3	45.2
	図形	4	41.0	46.5
	数量関係	9	38.3	40.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-
	数学的な考え方	12	31.6	35.8
	数量や図形についての技能	3	70.5	71.3
	数量や図形についての知識・理解	0	-	-
問題形式	選択式	6	45.2	48.8
	短答式	6	48.9	51.7
	記述式	3	8.8	13.6

がんばった問題例

～大阪府との比較において～

- 概数について理解している
 (問2(3): 25840を26000にした理由を選ぶ)
 府 38.9% 太子町 52.3% + 13.4 P
- 少数を分数にすることができる
 (問2(2): 0.37を分数で表す)
 府 85.1% 太子町 91.6% + 6.5 P

前回課題が見られた算数Aであるが、昨年度を上回り府の平均正答率と並んだ。特に「数と計算」の領域では「計算タイム」などの取り組みにおいて基礎基本に力を入れ、昨年一年の取り組みが数字として表れた形となっている。一方、「一冊あたりの値を求める」問題では昨年度同様、課題が見られ、努力が必要である。

アンケートで「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と答えた児童は府の平均より多い。授業に対する前向きな姿勢が見られ、今後基礎学力として定着することが期待される。

成果と課題



昨年度同様、「2つの店のえんぴつの本数と値段の関係をもとに比較する」問題や「条件を満たす組み合わせを判断し、説明する」問題など、論理的に考え記述する「数学的な考え方」や「記述式」の領域に課題が見られる。

ただ、記述例が示されている問題では改善が見られる。このことから、自分が導いた答えに対し、説明する表現力を身につける指導をさらに充実し、論理的に考える力が育つようにしていく必要がある。

成果と課題

